

# 未来づくり懇談会（安沢）会議録

日 時：平成29年10月26日（木）

18：30～20：53

場 所：安沢自治公民館

出席者：市長、総合政策部長、市民生活部長、  
経済建設部長

1 開 会 18：30 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

3 出席者紹介

4 矢板市設定テーマ

○持続可能な安沢地区のまちづくりについて

・資料に基づき、人口・高齢化率推移等を説明

5 行政区設定テーマ

○次期環境施設整備に伴う地域還元について

塩谷広域行政組合の次期環境施設の整備にあたり、安沢行政区と塩谷広域行政組合で地域還元に関する覚書が締結され、地域還元が進められていると聞いている。市では、塩谷広域行政組合からの協力要請を受け、行政区内の道路整備を進めている。市としても、行政区の皆様のできる限りの支援をしているところ。

また、市道木幡・安沢1号線については10m幅員の2.5mの歩道付き。市道安沢12号線、市道安沢15号線については7.5m幅員の歩道なしで整備をする。昨年度までに、道路の詳細設計をし、用地幅杭を打った。この後、用地協力となるが、延長が長く、職員のマンパワーの関係もあるので、新幹線の方から600mを第一期工区として進めていく。残りが第二期工区となる。

第一期工区は、今年度は土地の評価、支障となる物件の補償の調査を行った。来年度は用地買収、支障となる物件の補償を行う。平成31年度から、地権者全員の協力が得られれば改良工事に入る。

第二期工区については、来年度に土地評価、支障となる物件の補償の調査を行う予定。後は一期工区と同じ流れで工事となる。

市道安沢・越畑14号線について、次期環境施設の進入路になるが、延長が634m、幅員が11.5mとなる。11.5mの中には、歩道2.5mが入り、二車線の道路となる。10月に道路の東側に側溝を入れる工事を発注した。1月に側溝の西側に道路を作る工事を発注する。舗装は次期環境施設の整備後に仕上げる。工事期間中は迷惑をおかけする。農耕車を含め一般車両を優先していきたい。

## 6 意見交換

Q1 「子や孫が帰ってくるまちづくり」「高校生が集うまちづくり」と訴えてきたが、具体的に今何をやっているのか。

A1 「子どもや孫が帰ってくるまちづくり」の1つ目として「安定した雇用を作る」ために企業誘致に取り組んでいる。矢板南産業団地に昨年度二社の進出があった。本年度もすでに一社の進出が決定している。さらに何件かの引き合いもある。安定した職場を矢板市に作っていくことが必要。また技術力が高い、業界でのシェアが高い企業があるので、企業PRにも、国の地方創生加速化交付金を活用し、昨年度から取り組んでいる。

平成 28 年 12 月	矢板市企業紹介冊子作成 矢板市企業研究セミナー開催
平成 29 年 2 月	やいたUターン意見交換会開催
平成 29 年 11 月	矢板市企業紹介冊子作成 作新祭出展
平成 30 年 2 月	保護者向けセミナー開催
平成 28 年度	高野商運、東色ピグメントの進出決定
平成 29 年度	小出鋼管の進出決定

2つ目として「新しい人の流れを作る」。昨年5月、矢板北スマートICが新規事業化された。併せて昨年度、国道4号の矢板・大田原バイパスが正式にバイパス化が決定した。年内には、土屋から箒川をまたいで大田原の上石上にいたるルートが正式に発表されるのではないかと期待している。

3つ目として「矢板で妊娠・出産・子育ての希望を叶える」。子育て環境の充実強化に取り組んできた。例えば、プレミアム付き商品券の一部を子育て世帯に振り向けた。結婚については、本年度、内閣府から交付金を頂き、市では初めてとなるが「やいた de ハッピーチェーン」という婚活イベントを実施する。

平成 28 年 11 月	やいた未来クラブ婚活イベント実施
平成 29 年 9 月	やいた未来クラブ婚活イベント実施
平成 29 年 11 月	地域少子化対策重点推進事業交付金を受けて事業実施 矢板市未来づくりプロジェクト 「やいた de ハッピーチェーン」 5回実施 延べ156人
平成 30 年 5 月	矢板市婚活イベント企画運營業務委託を実施

「高校生が集まるまちづくり」については、矢板は小さなまちだが高校が三つもある。昨年度と本年度、二か年かけて、生涯学習課で実施している矢板武塾に市内三校の生徒に集ってもらい、高校生の目線で、特に駅前周辺の活性化について調査・研究をしてもらっている。

平成 28 年度	矢板武塾の開催 参加人数：13人（うち高校生9人）
平成 29 年度	矢板武塾の開催 塾生主導で「高校生の居場所づくり」について検討。参加人数：11人（すべて高校生）
平成 30 年度	高校生を主体とするまちづくり団体の活動を目指す。

継続的に高校生が主体となった活動を支援。

Q 2 国や県も確かに予算がない。無い中で予算をどれだけもらってきているのか。

A 2 例としては、スマート I C のアクセス道路の整備に 1 億円。婚活イベント、地方創生加速化交付金の矢板企業誘致セミナーなど、積極的に活用している。地方創生の拠点整備交付金にも積極的に手を挙げて交付金をもらっている。

Q 1 専売公社の跡地にサッカー場を作るのではなく分譲地を作ってはどうか。家が建てば固定資産税などで市の税金がかなり上がる。

A 1 フットボールセンターについては、当初県内 1 か所のはずであったが小山市と県内二か所になってしまった経過がある。県サッカー協会の補助金の算定ミスなどがあり、市の支出が当初見込額より増加する事情もあった。

NPO 法人たかはら那須スポーツクラブから、規模をグラウンド 3 面から 2 面にし、クラブハウスを縮小したうえであれば、矢板市からの補助金等は 1 億円ほどで済むので、設置運営したいとの提案を今年 6 月に受けた。現在はその計画が実現可能なのか、シンクタンクを交え検討しているところ。

この場所については、サッカーグラウンドを整備することで起債をして取得している。まずは計画がどのような形になっていくかを検討していくことが必要。検討後に整備が難しければ、家を建ててもらおうなど積極的に進めていきたい。

平成 28 年 9 月	民間活力導入可能性調査業務を委託
平成 29 年 6 月	民間活力導入可能性調査の結果を議会全員協議会で報告。
平成 29 年 7 月	NPO 法人たかはら那須スポーツクラブから民設民営での実施提案書提出。
平成 29 年 10 月	事業計画検証業務を委託 検証結果、実現可能性ありと報告。
平成 29 年 12 月	12 月定例会で NPO 法人たかはら那須スポーツクラブに施設整備及び運営を委ねる旨を表明。

Q 2 子ども医療の現物給付化をお願いしたい。

A 2 高校 3 年生まで無償化としている。償還払いのため市役所の窓口まで行くのが大変などの課題があることは承知している。子育て環境を整備していく上での一番大きな課題と思っている。財源の問題があるが、周辺の市町に負けないような子ども医療費の水準に引き上げていきたい。

◆子ども医療費助成  
郵送でも申請が可能です。  
まとめて(1 年分)申請が可能です。

Q 3 旧安沢小に養護施設や住宅を入れるなどしては。

A 3 一部私有地が入っているため一団の土地として利用しにくい課題がある。今後、安沢行政区の皆さんの相談しながら、地域の活性化に役立つような施設として整備

していきたいと考えている。今後、給食センターを整備するときの候補地にはどうかとの意見も市役所内である。

Q 4 安沢は矢板市に対して貢献度がかなりあると思うがいかがか。

A 4 し尿処理施設や今回の次期環境施設の整備などの立地をお願いしている地域であることは承知している。市としても可能な範囲で、風評被害の払拭や地域活性化の役に立っていきたい。

Q 5 近辺の生活道路も整備してほしい。

A 5 道路に関するご要望は、どの行政区からもきている。順番通りではよりよい整備ができないので、優先順位をつけて整備をしていく。

Q 6 安沢小の北側からちゅーりっぷ保育園に抜ける道路を整備してほしい。

A 6 ちゅーりっぷ保育園の関係者からも要望がある。

Q 7 旧カインズホームからカローラのところまで街路灯が立っているが今は歯抜け状態になっている。そのまま放置したらポールが腐食して倒れる。個人の資産なので手が出せないのかもしれないが、条例か何かを作らないといけないのでは。

A 7 中央通りだけでなく片岡駅前にも、街路灯の作った会社が消滅して対応に困っている。市で取り壊すのも難しい。街路灯は組合の財産、所有という所がネックになっており、商工観光課で具体的な検討を始めている。

Q 8 敬老会の米寿のお祝いが廃止されたことについて考え直してほしい。

A 8 廃止の理由としては経費の節減と行政区長の負担が増えていたこと。商品券よりも賞状との声はあるので、敬老会実行委員会で意見が寄せられている旨を伝える。来年度向けて検討していきたいと思う。

Q 9 矢板市は国体の時にサッカーのまちということで売り出した記憶がある。フットボールセンターをきっかけに、サッカーのまちをもう一度、矢板のまちおこしという形で作っていったらいいと思う。

A 9 とちぎフットボールセンターについては、何らかの形で結論を得られるように、取り組んでいきたい。まずは、NPO法人たかはら那須スポーツクラブとの協議を進めていく。

Q 10 小学生のサッカー大会に出られるのは矢板地区では片岡小一校しかない。そのくらい矢板のサッカーは冷え込んでいる。それだけ矢板は寂しい。

A 10 承知はしている。その一方でヴェルフェたかはら那須のジュニアチームで活躍している矢小生、東小生がいる。ヴェルフェは、去年12月、鹿児島県で開催された全国大会にも出場している。小学校の部活としては難しい現状があるが、矢板市内の小学生のサッカーが廃れているということでは必ずしもないのではと思う。

Q11 片岡中学校の東側の道路について、北側が狭い。水曜日は全生徒が3時下校なので、迎えに行く車で混雑する。道路の拡張を要望したい。

A11 協力が得られずに拡幅ができない現状。理解を得ながら進めてきたい。

Q12 学校のエアコン設置について

A12 市内の学校は特別教室だけ設置している。全部設置は泉小学校のみ。矢板は学校の数が多いため、設置には6億円くらいかかる。どこから手を付ければというのもあり、現在に至るまで設置ができないでいる。

平成30年6月 矢板市立小中学校適正配置検討委員会を設置  
結果によって今後検討。

Q13 学校のガラスが割られた問題について、防犯カメラを設置する話があった。この辺はもう終わったのか。

A13 中学校が全部終わり、小学校が今行っている。

平成29年11月 全ての小中学校への設置完了

Q14 来年から敬老会に招待される方は80歳以上だということを知った。本当か。

A14 9月、10月の各地区別行政区長との意見交換会の中で、高齢対策課から敬老会のあり方検討の提案をした。おおむね理解は得られたが、最終的な決定は実行委員会となるので、まだ決まっていない。

平成30年度敬老会より

招待年齢については、対象年齢を80歳に引き上げ。

経過措置として1年に1歳ずつ段階的に引き上げ。

(昭和17年4月1日以前に生まれた方)

◆招待年齢

H30 : 76歳、H31 : 77歳、H32 : 78歳、H33 : 79歳、H34 : 80歳